

昭和五十年六月十一日に開館した「海蔵文庫」も、早や五年を迎えました。

海蔵文庫五周年迎える

地区の皆さんや篤志家のご寄付により、当初数百冊の図書も現在では約三千冊となり、地域図書館としては四日市のみならず、三重県内でも有数の充実したものとなりました。

毎週水・土曜日の二回開館しておりますが、沢山の子どもたちが、学校の帰りに本を読み、借りてゆきます。

五年と言えば、当時利用していた子どもたちも、今では中学生です。勉強／＼で追われる中であって、本当の意味での読書の喜び、楽しみがわかったのではないのでしょうか。子ども頃には育まれた「喜び」「悲しみ」など種々の感動は、心の栄養として、大きくなって結実することでしょう。

児童劇観賞会開く

三重大「トンカチ一座」公演

五周年記念事業として、去る六月二十九日、小学校体育館にて児童向け演劇観賞会を開きました。

約二百五十名の子どもやお母さん方が参加、三重大学「トン



三重大学「トンカチ一座」観賞会

くだくになって頑張り通した様子です。

「トンカチ一座」代表の大住さんは「四日市での公演は初めてですが、子ども

カチ一座」の演ずる「おしよさんとこぞうさん」を見、また皆んなで歌をうたって、楽しい半日を過ごしました。子どもたち

も熱心なら、学生さんも子どもに負けまいと大張り切り、汗だ

未永く可愛がってね…

私は「いぬなし二世」です



いぬなしの清掃をする山手中の生徒たち

いぬなしの清掃をする山手中の生徒たちめげず、病気にも風にも、たくましく育っているのに、片や、いぬなしの方は、伊勢湾台風までは五、六本の立派な木があったそうだが台風でひどい目にあわれ、現在残っているのは二本だけ。それに樹令二百年ぐらいの老木となって枯死寸前のピンチ。

これではいけないと、市の農業試験場の方たちが木から種をとり、一生けん命に、「二世作

私たちのふさと、海蔵地区には天然記念物となっている、「いぬなし」「いぬなし」といふ非常に珍しい、野生のナシの原種ともいえる木が自生していることを知って

いぬなしは山手中学のすぐ東に、あいなしは海蔵神社の西側にのよ。あいなしは住み心地がいよ。最近わかったんだけど、いぬ

いぬなしの兄弟は、日本の国内の数カ所にいるらしいの。でも、約六十年前の大正十一年に牧野富太郎博士が学界に発表して、私たちの自生地が、正式に国の天然記念物に指定され、永久に保存されることが決ったわけ。だから私たちは血統書付きの「いぬなし親子木」というわけね。

この間、山手中の生徒さん四十名が小雨降る中を、一生けん命に草刈りをしてもらってありがとう。もう十年以上も前から毎年清掃してもらってるんだってね。その善行をたたえるため市の教育委員会より感謝状をお受けになったそうすね。心よりおめでとう。

いぬなし子供会も結成されてから今年で十年目ね。そのほかライオンズクラブの人たちも奉仕されるそうね。感謝の気持ちでいっぱいよ。

いぬなしの住み心地も周囲の環境も大分よくなってきたけれど、時々アキカンやゴミを捨てていく人がいるわよ。「いぬなし」もみなさんの限りなき愛にはぐくまれながら、病氣しないようがんばるけれど、四日市市民のみなさんの暖い協力で未永く大切に見守っていつてね。お願いよ。

いぬなし清掃世話人一同
池田 理